

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 7日

事業所名 城山わんげの里

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		法令を遵守したスペースを確保している。活動ごとにエリアを設定している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		配置基準に応じた職員を配置し、社会福祉士・介護福祉士などの資格所有者を複数配置している。	安心して利用していただくために、利用人数に応じた職員配置を調整していきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		活動内容に応じて部屋を分けている。また、一人一人の理解度に応じた情報伝達の手立てを準備している。多目的トイレを設置している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			整理整頓に努めているが、施設建物備品の老朽化については子どもたちが今後も安心して利用できるよう、適宜修繕等を行っていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		当日勤務者全員で毎朝の打合せをおこなうとともに、適宜必要に応じて職員ミーティングも実施している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者向けにアンケート調査は実施し、保護者等からの意向や要望をもとに業務改善につなげている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現時点では保護者および事業所内での自己評価を実施しているが、今後必要に応じて第三者による外部評価の実施を検討していきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部研修を実施している。	今後も内部研修・外部研修共に年間通して計画的に研修の機会を設けていく。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		適宜アセスメントをおこない、保護者から聞き取ったニーズや課題とあわせて計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		事業所内で統一したアセスメントツールを使用している。	子どもたちの状況にあわせて、標準化されたアセスメントツールの使用も検討している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		子どもの様子から支援内容を考え、その上でガイドラインにおける提供すべき支援となっているかの確認をおこなっている。支援内容は原則具体的な内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画に沿った支援をおこなうよう努めている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		振り返りやミーティングをおこない、プログラムの内容や子どもたちの様子を共有・議論し、個別的な課題に応じた支援を提供している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動プログラムは個別の課題に応じてその都度計画している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		アセスメントをもとに優先順位をつけて目標設定している。支援計画の目標を踏まえた活動を準備している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前には職員全員で打ち合わせをおこない、主軸とサブの職員の動きを確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後には職員全員で振り返りをおこない、子どもの様子について共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎回記録をとり、振り返りやモニタリング時等に支援内容を見直している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		毎回の支援終了後に振り返りをおこない、定期的にモニタリングをおこなっている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		複数の職員が児童一人ひとりとかかわって状態を把握しており、チームでの支援をおこなっているが、その中でももっとも適当と思われる者が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて関係機関と連携している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	-	-	非該当	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	-	-	非該当	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて連絡をとる等、情報共有できるように努めている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて連絡をとる等、情報共有できるように努めている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		2か月に一度、近隣の事業所と情報共有等をおこなうために会議(子どものことを考える会)に参加している。同じフロアに発達障害者支援センターが設置されており、日常的に相談・助言を受け連携している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		幼稚園等との交流については、限られた支援時間の中で実施が難しいため現時点では実施していない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		自立支援協議会に法人から職員が参加している。近隣の事業所と情報共有等をおこなう機会(子どものことを考える会)に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		親子療育を原則としている。親子療育をおこなわない場合でも、支援前の受け入れ、支援後のフィードバック時に子どもの状況を伝え合い、共通理解できるように努めている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		状況に応じて支援後のフィードバック時に家庭での対応方法等についても助言している。	今後はペアレントプログラムの実施も検討していきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時にご説明するとともに事業所内に掲示している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		子どもの様子に基づいて作成した「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明をして同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		主に支援後のフィードバック時に相談を受けている。必要に応じて事業所内相談支援、関係機関連携等をおこなっている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者からの要望に応じて、保護者同士の連携を支援している。以前は座談会を設定し保護者同士の情報交換の場を設けていたが、今年度は実施できていないため次年度は検討したい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		契約時に苦情受付窓口、第三者委員の連絡先等を伝え周知している。また常時連絡先を掲示している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		法人の会報は発行しており、事業所独自の会報等は発行していない。その都度、活動概要等は説明している。	今後はHPを活用し発信していくことも検討していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報が記載された書類は鍵付き書庫に保管している。デジタルデータはセキュリティ付専用サーバーを使用している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		一人ひとりに応じた視覚的情報等を準備して意思の疎通と分かりやすさに工夫した支援をおこなっている。保護者とは利用毎に様子を報告し意思疎通が図れるように配慮している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		毎年、法人として祭り、実践報告会等を実施している。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		事故発生時・緊急時の対応マニュアル、感染症等予防マニュアル・災害対応マニュアルを策定・閲覧できるようにしている。また定期的に訓練も行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		職員中心に定期的に避難訓練を実施し、非常時に備えている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		利用前のアセスメントで確認。以後も必要に応じて確認を行なっている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		全ての児童について、アレルギーの有無を確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例が起った際には、早急にヒヤリハット報告書を作成し、職員間で共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人内研修の実施の他、適宜研修へ参加している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		やむを得ず身体拘束を行う必要がある場合には、組織的に決定し、事前に保護者に説明、了解を得た上で支援計画に記載する。	